

全員参加型討論会「今、静岡できること(話っ、輪っ、和っ！2013)」
(年次報告(平成25年度後期・26年度前期) V
地域交流)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 複田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008126

全員参加型討論会「今、静岡でできること（話っ、輪っ、和っ！2013）」

袴田 麻里

25年度は、公益財団法人中島記念国際交流財団より助成を受け、留学生地域交流事業として、静岡県留学生等交流推進協議会の単独企画として、静岡県と協力しながらの実施となった。5月に留学生7名と日本人学生7名で実行委員会を結成、静岡大学国際交流センター教員とともに準備・運営を行なった。

大きな成果としては、「留学生」と「日本人学生」ではなく、同じ「静岡県で学ぶ学生」として活動できたことである。学生（留学生と日本人学生）が実行委員だったことで同じ学生として活動に取り組む姿勢があり、それが参加学生（留学生と日本人学生）にも波及した。その結果、イベント終了後も学生同士の交流が続いている。このような個人レベルでの友人関係が築けたことは大きな成果である。

また、実行委員は10月20日の静岡県留学生支援ネットワーク主催の富士山周辺バスツアーのスタッフとしても参加した。企画段階から実施団体である静岡県国際交流協会と打ち合わせを重ねて、参加者募集から当日の実施まで関わった。「話っ、輪っ、和っ！」の準備と並行しての活動だったため時間的に余裕がなくなってしまったが、他機関の企画に関わることで、イベント実施の方法や調整について学ぶよい機会になった。

静岡県は平成21年度より、質の高い留学生を受け入れ、地域社会・産業を支える人材として送り出す方針をとっており、産学官の連携が進んでいる。しかしながら、静岡県の国際化を進めるためには、今後、留学生支援と並行して、日本人学生の国際化を積極的に進めなければならない。「話っ、輪っ、和っ！」は多様な価値観、背景を持つ留学生と日本人学生が気軽に交流できる機会である。同じ大学生として有意義な大学生活を送ることができるよう、留学生へも日本人学生へも働きかけをさらに強めていきたい。